

# 在来種、固定種のタネをつなぎ 広げていきたい



銚子グリーンマーケットで、種採りワークショップを開催。



子どもたちは畑が大好き。野菜を口にした時の反応も素直。



↑ 好評の白いサツマイモ「コガネセンガン」



↓ 出荷前の夏の野菜詰め合わせ



## 平成9年に就農、22年が経ちました

私はもともと農家の出身で、40数年前は畑約1町歩、田6反ほどを耕作していました。子どもころは露地のニンジン、サツマイモ、米の出荷を手伝ったことを覚えています。

代々農家でしたが、父は高校を卒業してから働きに出ており、祖父、祖母、母のいわゆる三ちゃん農業を続けていました。鹿島工業地帯へ勤める人が多くいました。

露地の野菜が良い値で売れる時代が去り、トンネルものや施設ものが流行り出した頃、畑を他人に貸し、米だけを作るだけになり、母も働きに出るようになりました。私はそういう状況の中で、貸していた畑を返してもらい、農業を再開したことになります。

この地域は千葉県の北総台地の東部にあり、畑作のとても盛んなところです。私が子どもころは露地物が主流で、現在はトンネルのコカブが多く、県内有数の産地になっています。ほかにキヤベツ、大根、ニンジン、ねぎ、そしてハウスもの、畜産などが広がる土地柄です。

この台地は、標高50〜60mあり肥沃な土質ですが、昔はしばしば干ばつ被害をうけて、台地特有の水不足に悩まされていたそうです。近くに流れる利根川の水を何とか利用できないものかと、昭和30年代から農民から声上がり、昭和53年に用水事業がはじまりました。安定した用水の供給のおかげで、今の町の繁栄があるということです。

## 埼玉県小川町の霜里農場で1年間研修

そんな私が農業に興味を持ったのは、大学卒業前のことでした。平成7年の冷害の年、タイ米が緊急輸入された時、なぜかお米に

関する本を読むようになったのです。小さいころ少し手伝いをしたことが記憶の中になりました。進路を決める時期だったので、職業としても考えるようになりました。

福岡正信さんの『わら一本の革命』を手にしたのはこの頃でした。こんな農業もあるのか。考えとしては素晴らしいが、実践されている人はいるのか。いろいろ調べましたが、まずは農業の初歩的なことを学ばないと話にならないのではないかと思います。農家の育ちとはいえ、何も知らない状態でした。

どこか勉強させて下さるところはないかと考えているとき、朝日新聞に出ていた埼玉県小川町の金子美登さんの霜里農場の記事を読み、早速、手紙を差し上げ、研修をさせていただきたいとお願いました。研修希望が多くて空きがないと聞いていたのですが、偶然にも受け入れてもらえたのです。急に研修をやめた方がいたのです。

1年間、季節の野菜、稲、鶏、牛について、とても内容の濃い勉強をさせていただきました。金子さん夫妻、お母さん、同期の研修生、近くで就農された卒業生、よく来られる元研修生、外国からの研修生、研究者……多くの方に刺激をいただき、お世話になりました。

## 好評のコガネセンガン、出雲メロン

長年取り組んできたのは、在来種、固定種の良さを知っていたとき、広めていくことです。できるだけ多くの野菜の種をつなぐようにしています。

消費者のみなさんに食べていただかないといけませんので、実際に圃場に来ていただき、その雰囲気を感じ、口にしていただいています。子どもたちは素直に反応してくれ、親御さんも喜ばれます。とくに小さな子どもたちは、実がなっているものを採って、

その場で食べるのがとてもうれしいうです。

店頭にも野菜が、どういう環境で育っているのか、初めて見るのは子どもばかりではありません。大人からの初歩的な質問がとでも多くて、畑に立ち止まることしばしばあります。

自然食カフェにも食材を使っていたいています。白いサツマイモであるコガネセンガンは特に気に入っていただき、この甘さを生かしたスイーツに使っていただいています。ほかのサツマイモとは別のものとの印象を受けるようです。

たくさん新しい品種が出ていますが、古くからの良い品種も残していきたいものです。このコガネセンガンは、自然食品店さんをはじめ多くのファンがいらっしやいます。育つ環境と品種のもつ特性が人を惹きつけるのだと思います。

自然食品店を通じ、長崎の岩崎政利さんの出雲メロンの種をいただき、こちらも好評です。ある年代より上の方は懐かしさをおぼえ、若い方には初めて口にする新鮮さがあるのです。別の固定種を作っていました。この出雲メロンは作りやすさ、味ともに素晴らしいものです。長く作られていた岩崎さんの想いがつまっているからでしょう。

銚子市で13回目を迎える「銚子グリーンマーケット」では、種採りの体験をしていただくコーナーを依頼され、始めました。

オクラ、ダイコン、ニンジン、ブロッコリーなど、種を採る寸前の姿を展示し、実際に手でもみ出してもらいます。この種採り体験の情報を知って参加された小学生の親子連れは、熱心に手仕事をされていました。親御さんは飽きてしましますが、子どもさんは黙々と手を動かしていました。種の匂いと殻の感触が気に入ったのでしょうか。

野菜の花を展示して、「これは何の花？」というクイズにしま

した。ほとんど目にする事のない花に、大人のリアクションが良く、好評です。

F1の野菜しか食べてこなかった消費者に、固定種の良さを伝え続けることが、アドバイザーとしての役目だと思います。

この野菜たちが、耕さない畑で草とともにバランスよく育っている畑に消費者を招き入れていきたいと思っています。

さくま草生農園 〒289・0624 千葉県香取郡東庄町小南967

TEL&FAX 0478・87・0376

e : mail sakumasousei@yahoo.co.jp

長崎の岩崎政利さんの「出雲メロン」。味に懐かしさを覚える年代の人や、初めて口にする人には新鮮な味！と、好評。



野菜たちが、耕さない畑で草とともにバランスよく育っている。